

8701

## 歯科衛生士養成課程に在学する学生の臨床実践能力と 自己教育力に関する意識調査

\*瀬戸口 祐子<sup>1,2</sup> 前 岨 亜優子<sup>3</sup> 中 塚 美智子<sup>4</sup>  
せとぐち ゆう こ まえ そま あゆこ なか つか みちこ

抄録：近年、歯科衛生士が社会から求められるニーズは多様化しており、歯科衛生士養成課程についても対応が求められている。歯科衛生士がそうした変化に対応できるよう、養成課程において自己教育力を養うことが重要である。看護学分野では臨床実習が自己教育力を伸ばす機会の一つであるとの検討が多くなされているが、歯科衛生士養成課程における臨床実習と自己教育力育成との関連についてはほとんど検討されていない。本研究では、3年制の専門学校と短期大学、そして4年制大学それぞれの歯科衛生士養成課程に学ぶ学生を対象に、臨床実習前後で、臨床実践能力や自己教育力に関する自己評価方式の意識調査（臨床実践能力習得状況：24問、臨床実習に対する思いや考え：6問、自己教育力：40問）を行い、臨床実習が臨床実践能力や自己教育力に与える影響や、学校群別の違いについて検討した。実習前は計401名、実習後は計340名の学生から本調査への協力が得られ、回答を学校群別に集計し、実習前/後という時間と、学校の違いの2つの要因で二元配置分散分析を行った。結果として、臨床実習の経験により、すべての学校群の学生が自らの臨床実践能力の向上について肯定的意識を持っていることが分かった。学校群別では、専門学校や短期大学の学生は実習前から比較的高い自己評価をしている一方で、4年制大学の学生は比較的低かった自己評価を最も大きく伸ばす傾向があった。自己教育力については、4年制大学の学生は有意に伸ばす面がいくつかあったものの、専門学校や短期大学の学生にはそうした効果は現れなかった。臨床実践能力の向上と自己教育力の向上は必ずしも結び付かないことや、養成期間や養成校の違いによっても自己教育力の向上への効果に相違が見られたことは、今後の歯科衛生士養成課程における教育方法の改善を図る上で、学校群別の調整が必要であることを示唆しており、重要な結果である。

### 緒 言

歯科医療の発展と共に、歯科医療に対する社会の意識も変化してきた。特に近年、歯科疾患と全身疾患との関連についての認識が広がってきたことにより、口腔ケアや疾患予防に対する意識が急速に高まりをみせている。そのため、特にこれらを専門とする歯科衛生士の業務も多岐にわたるようになってきている。

例えば、1997年に介護保険法が公布され、歯科衛生士は介護の現場でも口腔ケアを行う事が可能となった。

最近では2021年に、令和3年度介護報酬改定に合わせて、歯科衛生士は「居宅療養管理指導の提供に当たり、医師・歯科医師の指導、助言等につながる情報の把握に努め、必要な情報を医師又は歯科医師に提供する」とされ、<sup>1</sup> 歯科衛生士の業務には介護事業所との連携など大きな変化が起きている。<sup>2</sup>

このように歯科衛生士が社会から求められるニーズは年々多様化し、それに伴い歯科衛生士の養成期間も変化してきた。日本における歯科衛生士の養成は、1948年（昭和23年）に歯科衛生士法が公布され、翌年の1949

<sup>1</sup> 大阪歯科大学大学院医療保健学研究科博士課程（後期）

〒573-1144 大阪府枚方市牧野本町 1-4-4

<sup>2</sup> なにわ歯科衛生専門学校

〒530-0011 大阪市北区大深町 2-179

<sup>3</sup> 大阪歯科大学医療保健学部口腔保健学科

<sup>4</sup> 大阪歯科大学医療保健学部口腔工学科

〒573-1144 大阪府枚方市牧野本町 1-4-4

\*E-mail: setoguchi-y@cc.osaka-dent.ac.jp

年（昭和 24 年）に 1 年制の歯科衛生士養成課程が開始されたことにさかのぼる。1988 年（昭和 63 年）には歯科衛生士養成課程 2 年制が施行され、さらに 2004 年（平成 16 年）には、歯科衛生士学校養成所指定規則の改訂により 3 年制以上になり（2010 年 3 月まで経過措置）、同年、4 年制の歯科衛生士養成課程も誕生した。<sup>3,4</sup> 現在、3 年制の専門学校と短期大学、そして 4 年制大学合わせて、日本全国に 179 以上の歯科衛生士養成機関があり、一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会へ加入している養成校は専門学校 150 校、短期大学 16 校、大学 13 校となっている（2023 年 5 月現在）。<sup>5</sup>

同協議会が発行する「歯科衛生学教育コア・カリキュラムー教育内容ガイドラインー2022 年度改訂版」には、良質な歯科保健医療サービスを提供していくためには、歯科衛生士数を充足するとともに資質の向上を図ることが極めて重要であること、そのためには歯科衛生士養成校における歯科衛生学教育の質を一層高め、一定水準の質を担保すると同時に、教育内容を再編成して多様化を図る必要があることが述べられている。<sup>6</sup> また、臨地実習については、歯科衛生士として必要な知識・技能・態度を身につけることを目的として、歯科臨床と地域保健活動の場で実践的な教育を受けることが記されている。<sup>6</sup>

以上のように、保健・医療・福祉を取り巻く社会情勢の変化に伴い、歯科衛生士の養成期間や養成機関に関する変革が行われてきた。一方、そうした変化に対応するためにも、歯科衛生士自身が、歯科衛生士としての資質向上や社会的ニーズに応えることに意識や責任を持ち続け、継続的な自己研鑽を行うことも大切であり、歯科衛生士養成課程においては、そうした自己教育力<sup>7</sup>を養うことが必要であると言える。自己教育力、すなわち客観的な自己評価を行い、さらに向上を図ろうとする力については、卒前教育の影響が大きいと考えられるが、公益社団法人日本歯科衛生士会の「臨地実習指導マニュアルー歯科衛生士学生指導のためにー」においても、臨地実習の目的・目標として、自己を客観的に評価し、自ら向上する態度を身につけることが含まれている。<sup>8</sup> しかし、これまで歯科衛生士養成機関に在籍する学生および歯科衛生士を対象として、自己教育力というテーマで十分な研究が行われてきたとは言い難い。

一方、看護学分野では、成人看護学実習における学生の自己教育力に影響する要因の検討、<sup>9</sup> 基礎実習前後における自己教育力の変化、<sup>10</sup> 自己教育力に影響をおよぼす要因の分析、<sup>11</sup> 看護師の自己教育力の発展を促すための課題<sup>12</sup> など多くの研究が行われてきた。学校群別の臨

地実習に関する研究では、看護基礎教育における臨地実習のりこえ感と看護実践能力の関連の検討で、4 年制の大学生の場合は 3 年制の専門学校生・短期大学生と比較して、自他への肯定的な評価が高くなることが報告された。<sup>13</sup>

本稿では、こうした状況を踏まえ、事前に協力が得られた全国の歯科衛生士教育機関に在籍する学生を対象に、臨床実習前後における臨床実践能力習得状況、臨床実習全般に対する思いや考え、自己教育力に関する意識の変化について調査するとともに、それらの養成機関（専門学校、短期大学、4 年制大学）による違いについても検討を行い、新たな知見を得たので報告する。

## 対象と方法

### 1. 調査対象

全国の歯科衛生士養成機関のうち本調査研究への協力が得られた機関の学生の中で、2021~2022 年度に臨床実習を開始し、2022 年度に終了した者 623 名を対象にした。

### 2. 調査方法

#### 1) 調査方法および期間

本研究は大阪歯科大学医の倫理委員会の承認を受け（承認番号：大歯医倫 111181-0 号）、ヘルシンキ宣言（1964 年採択）を遵守して実施した。本調査研究への協力について承諾が得られた歯科衛生士養成機関の学生に、本調査研究への参加について文書で依頼した。依頼文書に記載された URL に学生自らがアクセスし、インターネット（Google Forms）上で回答した時点で、本調査研究への参加に同意したと見なした。下記の 2) および 3) で説明する各調査項目・内容について、回答者に自己評価してもらう形とした。調査時期は、臨床実習開始前は 2021 年 9 月から 2022 年 5 月（専門学校 2 年次：10 月~12 月、短期大学 2~3 年次：10 月~5 月、4 年制大学 3 年次：9 月~10 月）、臨床実習後は 2022 年 8 月から 12 月（専門学校 3 年次：10 月~12 月、短期大学 3 年次：8 月~11 月、4 年制大学 4 年次：10 月~11 月）であった。

#### 2) 臨床実習前後の「臨床実践能力習得状況」および「臨床実習全般に対する思いや考え」の調査項目

臨床実習前後の「臨床実践能力習得状況」については、2018 年に公益社団法人日本歯科衛生士会が作成した「臨地実習指導マニュアルー歯科衛生士学生指導のためにー」のうち、「歯科診療所における臨床実習」から一部を改変した計 7 種類の調査項目（基本姿勢、う蝕

予防処置, 歯周病予防処置, 歯科保健指導, 診療現場対応, 歯科材料, 医療安全管理)にわたる計 24 種類の調査内容 (Table 1-1, 1-2) を用いた (公益社団法人日本歯科衛生士会から許諾を得て使用). 臨床実習前後の「臨床実習全般に対する思いや考え」については, 独自に開発した 6 種類の調査内容 (Table 2) を用いた. これら合計 30 種類の調査内容からなる質問票調査 (Google Forms, 自記式, 無記名, 4 件法) を行った. 評価は, 「1: あてはまらない」, 「2: どちらかといえばあてはまらない」, 「3: どちらかといえばあてはまる」, 「4: あてはまる」の 4 段階とした. 1 つの調査内容について逆転項目とした (Table 2).

### 3) 臨床実習前後の「自己教育力」の調査項目

梶田が作成した 30 項目の自己教育性調査票<sup>14</sup> に, 西村らが追加作成した 10 項目を加えた, 計 4 つの尺度 (側面 I 「成長発展への志向」, 側面 II 「自己の対象化と統制」, 側面 III 「学習の技能と基盤」, 側面 IV 「自信・プライド・安定性」) にわたる計 40 種類の調査項目 (Table 3-1, 3-2) からなる看護婦の自己教育力測定尺度 (作成者から許諾を得て使用, 本来は日本語の尺度で, 日本語で測定した.)<sup>15</sup> について, 2) と同時に質問票調査 (Google Forms, 自記式, 無記名, 4 件法) を行った. 評価は, 「1: あてはまらない」, 「2: どちらかといえばあてはまらない」, 「3: どちらかといえばあてはまる」, 「4: あてはまる」の 4 段階とした. 11 項目を逆転項目とした (Table 3-1, 3-2).

### 4) 分析

得られたデータを歯科衛生士養成機関の学校群別 (専門学校, 短期大学, 4 年制大学) に分類し, 臨床実習前後の「臨床実践能力習得状況」, 「臨床実習全般に対する思いや考え」, 「自己教育力」について評価した. 逆転項目は, 回答の数値を逆転し単純集計を行った. 各測定値は平均値±標準偏差 (Mean±SD) で表した.

すべての評価項目に対して, 「時間」(臨床実習前 (Pre), 臨床実習後 (Post)) と「学校の違い」(専門学校, 短期大学, 4 年制大学) の 2 つを要因とする二元配置分散分析を行った. その結果, それら 2 つの要因のうち少なくとも 1 つに主効果が認められ, かつ交互作用も認められた場合には, ボンフェローニ法にて多重比較検定を行った. 有意水準は  $p < 0.05$  とした. ただし, 学校群別での検討の場合の有意水準は  $p < (0.05/3)$  とした. 統計解析は, 統計ソフト IBM SPSS Statistics 28.0 (IBM 社製) を使用した.

## 結 果

### 1. 回答者の属性

調査対象学生 623 名のうち, 臨床実習前は 401 名 (専門学校生 285 名 (71.07%), 短期大学生 86 名 (21.45%), 4 年制大学生 30 名 (7.48%). 全体の回答率: 64.37%, 臨床実習後は 340 名 (専門学校生 118 名 (34.71%), 短期大学生 174 名 (51.18%), 4 年制大学生 48 名 (14.12%). 全体の回答率: 54.57%) から回答を得た.

### 2. 臨床実習前後の臨床実践能力習得状況, 臨床実習全般に対する思いや考え, 自己教育力に関する回答結果

#### 1) 臨床実践能力習得状況

まず Table 1-1, 1-2 に, 臨床実習前後の臨床実践能力習得状況について, 学生の自己評価結果を示す. 各測定値, そして実習前 (Pre) / 実習後 (Post) の「時間」および専門学校 / 短期大学 / 4 年制大学の「学校の違い」を要因とする二元配置分散分析の結果は以下の通りであった.

- ・すべての調査項目・内容, すべての学校群で, Pre 値に比べて Post 値が高くなる傾向が見られた. それに対応して, 二元配置分散分析の結果としても, すべての調査項目・内容で「時間」の要因に有意な主効果が認められた.

- ・「基本姿勢」の項目平均では, Pre 値でも 3 点台中盤で比較的高く, Post 値は微増してさらに 4 点に近づいた.

- ・「診療現場対応」「医療安全管理」の各項目平均では, Pre 値は「診療現場対応」の 4 年制大学のみ約 2.5 だった以外は約 2.8~2.9 と「基本姿勢」に次いで高いレベルであり, Post 値は約 3.2 と, 一定の上昇が見られた.

- ・「う蝕予防処置」「歯周病予防処置」「歯科保健指導」「歯科材料」の各項目平均では, Pre 値は 2.5 前後で各学校群とも比較的低く, 一方, Post 値は 3.0 前後となり, 一定の上昇が見られた.

- ・「基本姿勢」, 「歯科保健指導」, 「診療現場対応」の各項目平均で, 4 年制大学の Pre 値が専門学校と短期大学の Pre 値に比べて低く, 一方で上昇率は最も高い結果, Post では 4 年制大学の値は専門学校と短期大学の値と同程度になった. 結果としてこれらの項目では, 「時間」「学校の違い」の 2 つの要因間に有意な交互作用が認められた.

- ・「歯周病予防処置」の「スケーラーの種類と使用目的

**Table 1-1** Comparison of self-assessment by school group on acquisition of clinical practice skills (basic attitude, caries prophylaxis, periodontal prophylaxis, and dental health guidance)<sup>a</sup> before and after clinical practice<sup>b</sup>

Survey item No.	Survey content	Pre/Post	College Pre (n=285) Post (n=118)	Junior College Pre (n=86) Post (n=174)	University Pre (n=30) Post (n=48)	Main effect (time)	Main effect (school group)	Interaction	
Basic attitude	1 Ability to follow the rules of practical training (e.g., grooming, practical attitude, confidentiality, and so on).	Pre	3.81±0.39	3.80±0.40	3.80±0.41	p<0.05	NS	NS	
		Post	3.88±0.37	3.87±0.33	3.92±0.28				
	2 Ability to communicate with patients and medical staff.	Pre	3.19±0.60	3.28±0.55	3.00±0.59	p<0.01	NS	NS	
		Post	3.37±0.58	3.40±0.57	3.46±0.65				
	3 Ability to report, communicate, and consult with others as necessary for practical training.	Pre	3.54±0.54	3.58±0.52	3.17±0.53**	p<0.01	NS	p<0.01	
		Post	3.64±0.55	3.66±0.54	3.73±0.49				
Average		Pre	3.51±0.40**	3.55±0.38	3.32±0.42**	p<0.01	NS	p<0.05	
		Post	3.63±0.41	3.65±0.34	3.70±0.37				
Caries prophylaxis	1 Ability to identify problems and explain the need for maintenance based on information obtained through intraoral observation, interview, and examination.	Pre	2.80±0.71	2.86±0.62	2.73±0.64	p<0.01	NS	NS	
		Post	3.11±0.58	3.20±0.65	3.27±0.45				
	2 Ability to perform caries prophylaxis.	Pre	2.52±0.79	2.69±0.62	2.33±0.66	p<0.01	NS	NS	
		Post	2.92±0.70	2.93±0.71	3.00±0.62				
	Average		Pre	2.66±0.65	2.77±0.55	2.53±0.57	p<0.01	NS	NS
			Post	3.01±0.53	3.06±0.58	3.14±0.46			
Periodontal prophylaxis	1 Ability to gather information on lifestyle and other factors, as well as explain the relationship between periodontal disease and systemic diseases.	Pre	2.67±0.66	2.59±0.56	2.53±0.63	p<0.01	NS	NS	
		Post	3.02±0.61	2.94±0.61	3.21±0.46				
	2 Ability to understand scaler types and their intended use, as well as select appropriate scalers for application.	Pre	2.77±0.64***	2.73±0.56***	2.27±0.64**	p<0.01	p<0.01	p<0.05	
		Post	2.94±0.62	2.98±0.69	2.85±0.46				
	3 Ability to clean tooth surfaces appropriately based on each patient's oral condition.	Pre	2.71±0.67	2.76±0.63	2.47±0.73	p<0.01	NS	NS	
		Post	3.11±0.65	3.06±0.62	3.00±0.62				
	4 Ability to explain the purpose of maintenance in periodontal disease.	Pre	2.59±0.69	2.66±0.63	2.60±0.67	p<0.01	NS	NS	
		Post	3.05±0.6	3.03±0.66	3.15±0.50				
Average		Pre	2.69±0.50	2.69±0.44	2.47±0.56	p<0.01	NS	NS	
		Post	3.03±0.47	3.00±0.50	3.05±0.37				
Dental health guidance	1 Ability to understand the subject's lifestyle and living environment, as well as their general health status.	Pre	2.66±0.69**	2.73±0.58**	2.53±0.63**	p<0.01	NS	p<0.05	
		Post	2.88±0.63*	3.05±0.60	3.19±0.53				
	2 Ability to understand the dietary habits of the target population and provide corresponding dietary guidance.	Pre	2.53±0.72	2.62±0.65*	2.40±0.62**	p<0.01	p<0.05	p<0.05	
		Post	2.59±0.77*#	2.83±0.67	2.92±0.58				
	3 Ability to observe and evaluate dental and oral diseases/abnormalities in the subject's teeth and oral cavities.	Pre	2.62±0.67	2.64±0.57	2.40±0.67	p<0.01	NS	NS	
		Post	2.85±0.65	2.95±0.59	2.96±0.54				
	4 Ability to communicate with the target audience and provide appropriate dental health guidance.	Pre	2.69±0.71	2.78±0.56	2.60±0.62	p<0.01	NS	NS	
		Post	2.98±0.65	3.03±0.59	3.17±0.52				
Average		Pre	2.63±0.58**	2.69±0.48**	2.48±0.56**	p<0.01	NS	p<0.05	
		Post	2.83±0.54	2.97±0.48	3.06±0.46				

<sup>a</sup>Teaching Manual in Clinical Practice: For Teaching Dental Hygiene Students, published by the Japan Dental Hygienists' Association (JDHA), was modified in part by the author. The original Japanese text was used for the survey and translated into English by the author in this table.

<sup>b</sup>The obtained scores are shown as mean±standard deviation (SD).

\*p<0.05 (vs. Post). \*\*p<0.01 (vs. Post). †p<0.05/3 (vs. Junior College). ††p<0.01/3 (vs. Junior College). #p<0.05/3 (vs. University). ###p<0.01/3 (vs. University).

を理解した上で、用途に合わせて適切なスケーラーを選択できる」でも同様に、4年制大学のPre値が他よりも低い一方、Post値は同程度になった。この質問については「時間」「学校の違い」の両方の要因に有意な主効果が認められ、それら要因間の交互作用も認められた。

・「歯科保健指導」の「対象者の生活習慣と生活環境、全身的な健康状態を把握することができる」「対象者の食生活習慣を把握し、対象者に応じた食生活指導ができる」では、専門学校のPost値が、前者は4年制大学のPost値、後者は短期大学と4年制大学のPost値に比

べて有意に低かった。

## 2) 臨床実習全般に対する思いや考え

Table 2に、臨床実習前後の臨床実習全般に対する思いや考えについて、学生の自己評価結果を示す。各測定値、そして「時間」および「学校の違い」を要因とする二元配置分散分析の結果は以下の通りであった。

・「臨床実習に対して不安や苦手意識がある」は、他の5つの質問に対する回答(2点台~3点台)と比較して、Pre値、Post値とも1点台で明らかに低いが、一定の上昇は見られ、結果として「時間」要因に主効果が認められた。

**Table 1-2** Comparison of self-assessment by school group on acquisition of clinical practice skills (clinical practice, dental materials, and medical safety measurement)<sup>a</sup> before and after clinical practice<sup>b</sup>

Survey item No.	Survey content	Pre/Post	College Pre (n=285) Post (n=118)	Junior College Pre (n=86) Post (n=174)	University Pre (n=30) Post (n=48)	Main effect (time)	Main effect (school group)	Interaction
Clinical practice	1 Ability to respond to the health status of the patient.	Pre	2.82±0.63**	2.81±0.52**	2.43±0.68**	p<0.01	NS	p<0.01
		Post	3.08±0.63	3.19±0.59	3.21±0.46			
	2 Ability to provide medical instruments, equipment, and facilities.	Pre	2.82±0.78	2.77±0.59	2.37±0.61	p<0.01	p<0.01	NS
		Post	3.41±0.60	3.32±0.56	3.29±0.62			
	3 Ability to operate vacuum for the purposes of medical treatment.	Pre	2.89±0.69	2.93±0.53	2.70±0.65	p<0.01	NS	NS
		Post	3.30±0.60	3.29±0.54	3.29±0.65			
	4 Ability to distinguish disinfection and sterilization methods appropriate for each instrument and manage disinfectants, various sterilization instruments, and other instruments.	Pre	2.72±0.72	2.70±0.61	2.40±0.62	p<0.01	NS	NS
		Post	3.06±0.74	2.96±0.71	2.98±0.67			
Average	Pre	2.81±0.56***	2.80±0.42***	2.48±0.51**	p<0.01	p<0.05	p<0.05	
	Post	3.21±0.51	3.19±0.44	3.19±0.48				
Dental materials	1 Ability to explain the basic properties of major dental materials (impression materials, adhesive materials, crown restorative materials, and so on).	Pre	2.40±0.68	2.37±0.61	2.30±0.65	p<0.01	NS	NS
		Post	2.81±0.67	2.84±0.66	2.98±0.44			
	2 Ability to properly manipulate major dental materials (impression materials, bonding materials, crown restorative materials, and so on).	Pre	2.69±0.72	2.55±0.63	2.50±0.68	p<0.01	p<0.05	NS
		Post	3.19±0.68	3.10±0.61	3.06±0.63			
Average	Pre	2.55±0.64	2.46±0.57	2.40±0.58	p<0.01	NS	NS	
	Post	3.00±0.60	2.97±0.57	3.02±0.49				
Medical safety management	1 Ability to implement standard preventive measures.	Pre	3.18±0.66	3.08±0.62	3.17±0.65	p<0.01	p<0.05	NS
		Post	3.58±0.55	3.36±0.65	3.42±0.54			
	2 Ability to properly handle and dispose of medical waste.	Pre	3.19±0.63	3.21±0.56	3.20±0.61	p<0.01	NS	NS
		Post	3.50±0.58	3.44±0.58	3.23±0.59			
	3 Ability to disseminate information in accordance with ethical guidelines.	Pre	3.05±0.77	2.93±0.68	2.90±0.80	p<0.01	NS	NS
		Post	3.25±0.66	3.17±0.63	3.21±0.50			
	4 Ability to state and measure normal values for vital signs.	Pre	2.69±0.76	2.58±0.69	2.73±0.83	p<0.01	p<0.05	NS
		Post	3.01±0.73	2.91±0.77	3.25±0.48			
	5 Ability to explain primary life-saving procedures.	Pre	2.57±0.86	2.56±0.75	2.67±0.76	p<0.01	NS	NS
		Post	2.69±0.83	2.73±0.85	3.04±0.54			
Average	Pre	2.94±0.53	2.88±0.43	2.93±0.57	p<0.01	NS	NS	
	Post	3.21±0.50	3.12±0.49	3.23±0.38				

<sup>a</sup>Teaching Manual in Clinical Practice: For Teaching Dental Hygiene Students, published by the Japan Dental Hygienists' Association (JDHA), was modified in part by the author. The original Japanese text was used for the survey and translated into English by the author in this table.

<sup>b</sup>The obtained scores are shown as mean±standard deviation (SD).

\*p<0.05 (vs. Post). \*\*p<0.01 (vs. Post). †p<0.05/3 (vs. Junior College). ††p<0.01/3 (vs. Junior College). #p<0.05/3 (vs. University). ##p<0.01/3 (vs. University).

**Table 2** Comparison by school group of thoughts and ideas about clinical practice before and after clinical practice<sup>a</sup>

Scale	No.	Survey content	Pre/Post	College Pre (n=285) Post (n=118)	Junior College Pre (n=86) Post (n=174)	University Pre (n=30) Post (n=48)	Main effect (time)	Main effect (school group)	Interaction
Thoughts and ideas about clinical practice in general	※1 Feelings of uneasiness or incompetence regarding clinical training.	Pre	1.44±0.63	1.38±0.60	1.37±0.61	p<0.01	NS	NS	
		Post	1.84±0.84	1.80±0.70	1.88±0.64				
	2 Self-assess each day's practical training and practice procedures independently.	Pre	2.81±0.69	3.05±0.61	3.03±0.61	NS	p<0.01	NS	
		Post	2.72±0.76	3.01±0.65	3.15±0.55				
	3 Actively ask questions and seek clarification from supervisors and staff at the clinical training site.	Pre	2.94±0.70	3.06±0.69	3.03±0.61	p<0.01	p<0.01	NS	
		Post	2.99±0.78	3.23±0.65	3.35±0.67				
	4 Cooperate with other group members during clinical practice.	Pre	3.41±0.62	3.44±0.59	3.33±0.55	p<0.01	NS	NS	
		Post	3.48±0.60	3.58±0.55	3.58±0.50				
	5 Actively consult with and request guidance from faculty members of the clinical training facility where one is enrolled.	Pre	2.85±0.82	3.06±0.64 <sup>†</sup>	2.63±0.81	NS	p<0.01	p<0.01	
		Post	2.75±0.91 <sup>††</sup>	2.99±0.80	3.17±0.66				
	6 Have a clear image of the kind of dental hygienist they want to be in the future.	Pre	2.94±0.77	2.91±0.71*	2.57±0.86**	p<0.01	NS	p<0.05	
		Post	3.07±0.78	3.13±0.65	3.17±0.63				
Average	Pre	2.73±0.46	2.82±0.39*	2.66±0.42**	p<0.01	p<0.01	p<0.05		
	Post	2.81±0.50 <sup>††</sup>	2.96±0.41	3.05±0.37					

<sup>a</sup>Japanese text was used for the survey and translated into English by the author in this table.

The obtained scores are shown as mean±standard deviation (SD). †Reverse scoring was performed.

\*p<0.05 (vs. Post). \*\*p<0.01 (vs. Post). †p<0.05/3 (vs. Junior College). ††p<0.01/3 (vs. Junior College). #p<0.05/3 (vs. University). ##p<0.01/3 (vs. University).

**Table 3-1** Comparison of self-assessment by school group on self-educability (orientation to growth and development and objectification and control of the self)<sup>a</sup> before and after clinical practice<sup>b</sup>

Scale	No.	Survey item	Pre/ Post	College Pre (n=285) Post (n=118)	Junior College Pre (n=86) Post (n=174)	University Pre (n=30) Post (n=48)	Main effect (time)	Main effect (school group)	Interaction
Orientation to growth and devel- opment	31	I want to be a person who is respected by others in the future.	Pre Post	3.45±0.67 3.42±0.68	3.48±0.68 3.53±0.66	3.47±0.51 3.50±0.51	NS	NS	NS
	35	I want to do my best to maximize my abilities on multiple fronts.	Pre Post	3.36±0.67 3.31±0.62	3.44±0.61 3.48±0.58	3.10±0.61 3.35±0.53	NS	p<0.01	NS
	39	I want to work towards my goals, even if I do not gain recognition for doing so.	Pre Post	2.99±0.73† 3.01±0.65	3.22±0.69# 3.13±0.70	2.80±0.61 3.21±0.50	NS	p<0.05	p<0.05
	43	I want to do something that only I can do.	Pre Post	3.08±0.84 2.93±0.81	3.22±0.74 3.17±0.75	3.03±0.67 3.17±0.63	NS	p<0.05	NS
	47	I like to finish what I have started.	Pre Post	3.28±0.64 3.27±0.56	3.42±0.58 3.39±0.58	3.13±0.63 3.40±0.61	NS	p<0.05	NS
	51	I want to contribute to the world and be recognized by many people.	Pre Post	3.31±0.68 3.16±0.69	3.40±0.66 3.35±0.64	3.27±0.58 3.33±0.56	NS	p<0.05	NS
	55	I would like to gain a professional qualification or degree in the future.	Pre Post	3.26±0.77 3.03±0.84	3.42±0.64 3.27±0.74	3.30±0.53 3.40±0.68	NS	p<0.01	NS
	※59	I sometimes wonder what I study for.	Pre Post	1.92±0.86 2.08±0.88	2.10±0.83 2.04±0.89	2.00±0.83 1.98±0.73	NS	NS	NS
	※63	I often spend my time in a daze without actively thinking about anything.	Pre Post	1.84±0.84 1.69±0.81	1.78±0.77 1.67±0.68	1.77±0.77 1.79±0.71	NS	NS	NS
	※67	I believe a person's whole life is pretty much decided by chance.	Pre Post	1.90±0.75 2.08±0.82	2.08±0.75 2.06±0.73	2.10±0.71 2.02±0.60	NS	NS	NS
Average			Pre Post	2.84±0.39 2.80±0.38	2.96±0.37 2.91±0.33	2.80±0.36 2.92±0.29	NS	p<0.01	NS
Objectification and control of the self	34	I always try to self-assess what I am not doing well.	Pre Post	3.16±0.69 3.12±0.68	3.19±0.58 3.24±0.61	3.03±0.61 3.25±0.48	NS	NS	NS
	38	I do not get angry when my ideas or actions are criticized.	Pre Post	2.58±0.78 2.68±0.74	2.69±0.77 2.82±0.78	2.60±0.56 2.98±0.64	p<0.01	NS	NS
	42	I know my good and bad points.	Pre Post	3.19±0.67 3.17±0.64	3.12±0.73 3.25±0.66	2.90±0.61 3.21±0.54	p<0.05	NS	NS
	46	When other people point out faults, I try to think of them myself.	Pre Post	3.28±0.66 3.28±0.55	3.36±0.61 3.33±0.52	3.17±0.53 3.27±0.54	NS	NS	NS
	50	I try to hold myself back as much as possible to fit in with others.	Pre Post	2.84±0.77 2.80±0.71	2.94±0.69 2.89±0.71	2.97±0.81 2.96±0.74	NS	NS	NS
	54	I am careful not to say terrible things even when I am angry.	Pre Post	3.18±0.75 3.29±0.66	3.24±0.68 3.32±0.70	3.17±0.65 3.27±0.64	NS	NS	NS
	※58	When I am tired, I do not want to do anything.	Pre Post	1.37±0.61 1.36±0.53	1.49±0.61 1.33±0.49	1.63±0.76 1.50±0.55	NS	p<0.05	NS
	※62	I watch TV and am often unable to study.	Pre Post	1.78±0.76 2.01±0.91	1.87±0.70 2.16±0.95	1.87±0.78 1.96±0.77	p<0.05	NS	NS
	※66	If I have a bad day, I get grumpy easily.	Pre Post	2.44±0.84 2.43±0.88	2.31±0.80 2.34±0.81	2.50±0.82 2.23±0.83	NS	NS	NS
	70	Even when I hate something, I try my best to do just a little bit more.	Pre Post	2.99±0.74 2.97±0.69	2.99±0.79 2.95±0.73	2.97±0.56 3.08±0.58	NS	NS	NS
Average			Pre Post	2.68±0.35 2.71±0.32	2.72±0.33 2.76±0.29	2.68±0.34 2.77±0.28	NS	NS	NS

<sup>a</sup>Self-educability Measuring Scale (ref. 15) was used. The original Japanese text was used for the survey and translated into English by the author in this table. However, it is essentially a Japanese language scale and English translations are not measurable.

<sup>b</sup>The obtained scores are shown as mean±standard deviation (SD). ※Reverse scoring was performed.

\*p<0.05 (vs. Post). \*\*p<0.01 (vs. Post). †p<0.05/3 (vs. Junior College). ‡p<0.01/3 (vs. Junior College). #p<0.05/3 (vs. University). ##p<0.01/3 (vs. University).

**Table 3-2** Comparison of self-assessment by school group on self-educability (skills and foundations of learning and confidence, pride and stability)<sup>a</sup> before and after clinical practice<sup>b</sup>

Scale	No.	Survey item	Pre/Post	College Pre (n=285) Post (n=118)	Junior College Pre (n=86) Post (n=174)	University Pre (n=30) Post (n=48)	Main effect (time)	Main effect (school group)	Interaction
Skills and foundations of learning	32	I use the library when I want to find information.	Pre	1.71±0.88*	1.91±0.97	1.83±0.91**	$p < 0.01$	$p < 0.01$	$p < 0.01$
			Post	1.93±1.04##	2.03±0.96##	2.73±0.82			
	36	I am able to carry out a literature search on a topic that interests me.	Pre	2.76±0.86	2.92±0.77	2.67±0.61	$p < 0.05$	$p < 0.01$	NS
			Post	2.70±0.86	3.01±0.74	3.10±0.66			
	40	When I listen to other people or read a book, I have a habit of reflecting on the content and summarizing it.	Pre	2.43±0.88	2.62±0.77	2.50±0.63	$p < 0.05$	$p < 0.01$	NS
			Post	2.44±0.86	2.72±0.82	2.96±0.62			
	44	I understand the importance of discussion and debate in deepening and broadening ideas.	Pre	2.86±0.80	2.91±0.73	2.63±0.67**	$p < 0.01$	NS	$p < 0.01$
			Post	2.82±0.75	3.07±0.70	3.19±0.61			
	48	I can write and communicate thoughts in a logical way.	Pre	2.73±0.79	2.84±0.67	2.43±0.68**	$p < 0.01$	NS	$p < 0.01$
			Post	2.66±0.82	2.86±0.73	3.04±0.65			
※52	I am not good at explaining things to people in a way that is easy to understand, for example by using parables.	Pre	2.07±0.82	1.93±0.73	1.80±0.61	NS	NS	NS	
Post		2.04±0.70	1.91±0.75	2.06±0.52					
56	When I self-evaluate, I do so in the light of my own goals.	Pre	2.82±0.71	2.98±0.69	2.80±0.66	NS	$p < 0.01$	$p < 0.05$	
		Post	2.69±0.70†##	2.97±0.70	3.13±0.64				
60	I have a habit of sorting and organizing the literature and records I need.	Pre	2.50±0.87	2.58±0.82	2.37±0.67	NS	$p < 0.05$	NS	
		Post	2.41±0.84	2.74±0.83	2.73±0.89				
64	I think it is efficient to ask people if there is something I do not understand.	Pre	3.12±0.73	3.19±0.68	2.77±0.90	NS	NS	NS	
		Post	2.94±0.81	3.03±0.79	3.00±0.68				
68	I tend to find the learning methods and procedures that are appropriate for what I want to work on.	Pre	2.78±0.74	2.91±0.61	2.67±0.55	NS	$p < 0.05$	$p < 0.01$	
		Post	2.70±0.72##	2.89±0.66	3.13±0.44				
Average		Pre	2.58±0.46	2.68±0.39#	2.45±0.38**	$p < 0.01$	$p < 0.01$	$p < 0.01$	
		Post	2.53±0.45†##	2.72±0.43*	2.91±0.36				
Confidence, pride and stability	※33	Sometimes I think I can't be who I am now.	Pre	1.54±0.68	1.49±0.68	1.83±0.79	NS	$p < 0.05$	NS
	Post		1.67±0.67	1.51±0.58	1.58±0.54				
	37	I cannot stand it when other people make fun of me.	Pre	2.78±0.87	2.87±0.81	2.77±0.63	NS	NS	NS
			Post	2.76±0.80	2.90±0.87	2.90±0.83			
	※41	Sometimes I hate myself.	Pre	1.70±0.78	1.77±0.78	1.87±0.82	NS	NS	$p < 0.05$
	Post		1.87±0.83	1.59±0.67	1.88±0.67				
	※45	You do not get satisfactory results for your challenge.	Pre	2.16±0.93	2.51±0.89	2.33±0.88	NS	$p < 0.05$	NS
			Post	2.66±0.92	2.47±0.90	2.33±0.95			
	※49	Sometimes I feel ashamed of myself.	Pre	1.94±0.82	1.88±0.77	1.87±0.68	NS	NS	NS
			Post	2.05±0.85	1.90±0.76	2.10±0.75			
53	I think I am happy now.	Pre	3.05±0.82	3.06±0.74	3.00±0.64	NS	NS	NS	
		Post	3.06±0.66	3.05±0.75	3.19±0.53				
57	I think I am very confident in what I do.	Pre	2.49±0.85	2.55±0.73	2.33±0.66**	$p < 0.01$	NS	$p < 0.05$	
		Post	2.51±0.72	2.72±0.76	2.92±0.74				
61	If I were to be born again, I would want to be born as I am now.	Pre	2.48±0.93	2.45±0.89	2.30±0.95**	$p < 0.01$	NS	$p < 0.05$	
		Post	2.54±0.86	2.49±0.94	2.92±0.82				
65	I am happy with where I am now.	Pre	2.31±0.87	2.49±0.82	2.33±0.71	NS	NS	$p < 0.05$	
		Post	2.39±0.88	2.32±0.89	2.75±0.73				
69	I think I have a lot to offer.	Pre	2.85±0.80	2.76±0.81	2.53±0.82**	$p < 0.01$	NS	$p < 0.05$	
		Post	2.90±0.73	2.83±0.79	3.08±0.58				
Average		Pre	2.38±0.50	2.38±0.40	2.32±0.42	$p < 0.05$	NS	NS	
		Post	2.44±0.46	2.38±0.44	2.57±0.31				

<sup>a</sup>Self-educability Measuring Scale (ref. 15) was used. The original Japanese text was used for the survey and translated into English by the author in this table. However, it is essentially a Japanese language scale and English translations are not measurable.

<sup>b</sup>The obtained scores are shown as mean±standard deviation (SD). ※Reverse scoring was performed.

\* $p < 0.05$  (vs. Post). \*\* $p < 0.01$  (vs. Post). † $p < 0.05/3$  (vs. Junior College). †† $p < 0.01/3$  (vs. Junior College). # $p < 0.05/3$  (vs. University). ## $p < 0.01/3$  (vs. University).

・「臨床実習期間中に、在学している学校の教員に積極的に相談したり、指導を依頼したりする」については、専門学校は Pre 値, Post 値とも 2.8 前後, 短期大学は Pre 値, Post 値とも 3.0 前後でほとんど変化しなかったのに対して、4 年制大学の場合は Pre 値が約 2.6 (短期大学の Pre 値よりも有意に低い), Post 値が約 3.2 (専門学校の Post 値よりも有意に高い) と大きく上昇した。結果として、「学校の違い」要因に有意な主効果が認められ、「時間」「学校の違い」の 2 つの要因間で有意な交互作用が認められた。

・「将来自分になりたい歯科衛生士像を明確に持っている」に対しても同様な傾向が見られ、Pre 値→Post 値は専門学校と短期大学では約 2.9→約 3.1, 4 年制大学では約 2.6→約 3.2 となり、「時間」「学校の違い」の 2 つの要因間で有意な交互作用が認められた。

・6 つの質問全体の平均として、短期大学と 4 年制大学の場合で、Pre 値から Post 値への有意な上昇が見られ、「時間」と「学校の違い」の 2 つの要因に有意な主効果が認められ、2 つの要因間で有意な交互作用が認められた。

### 3) 自己教育力

Table 3-1, 3-2 に、臨床実習前後の自己教育力について、学生の自己評価結果を示す。各測定値、そして「時間」および「学校の違い」を要因とする二元配置分散分析の結果は以下の通りであった。

・「側面 I (成長発展への志向)」では全体的に Pre 値から Post 値への有意な変化が見られなかった一方、「たとえ認められなくても、自分の目標に向かって努力したい」に対して短期大学の Pre 値が専門学校や 4 年制大学の Pre 値よりも有意に高いなど、全体的に短期大学の Pre 値が高い傾向が見られ、「側面 I」全体平均としても、「学校の違い」の要因に有意な主効果が認められた。

・「側面 II (自己の対象化と統制)」では全体として、「時間」「学校の違い」の両方で大きな変化や違いは見られなかった。

・「側面 III (学習の技能と基盤)」では、全体平均の Pre 値と Post 値の比較において、専門学校は約 2.5~2.6, 短期大学は約 2.7 でほぼ変化しなかったのに対し、4 年制大学の場合は Pre 値が 2.45, Post 値が 2.91 と有意に上昇した。その結果、「時間」と「学校の違い」の 2 つの要因に有意な主効果が認められ、2 つの要因間で有意な交互作用が認められた。

・「側面 IV (自信・プライド・安定性)」では、「自分の

やる事に自信を持っているほうだと思う」「生まれ変われるとしたなら、やはり今の自分に生まれたい」「自分にもいろいろととりえがあると思う」の 3 つの質問に対して、4 年制大学の Pre 値から Post 値への有意な上昇が見られ、全体平均としても、「時間」の要因に有意な主効果が認められた。

## 考 察

臨床実習における臨床実践能力取得状況については、臨床実習前後で比較して、多くの調査項目・内容で有意な増加を示した。このことは、臨床実習が臨床実践能力の向上に寄与し、実習によって一定のスキルを身に付けることができたことと、それを学生自身が自覚していることを示唆している。一方、学校群別で見ると、その能力向上の傾向にはばらつきが見られる。すべての学校群で実習後に有意に高くなった調査項目は「歯科保健指導」「診療現場対応」であった。専門学校と 4 年制大学の場合は上記に「基本姿勢」も加わる結果であった。この結果から、まず「基本姿勢」については、実際の臨床現場における患者や医療人、特に医療人の人間性や倫理観、コミュニケーションに接したことにより、学内では学べなかった医療人としての姿勢や現場における歯科衛生士の役割をより深く理解することにつながったと考えられる。「歯科保健指導」では、臨床現場で実際に対象者を目で確認し、情報を得ながら全体を把握し、対象者に合った歯・口腔の健康維持・増進に寄与するための歯科保健指導の進め方を学ぶことができたと考えられる。また「診療現場対応」については、歯科診療の現場で用いられる歯科材料に触れつつ、チェアサイドでアシスタントをしながら、学内で学んだ知識や技術以外にも歯科診療補助に必要な専門的知識、技術および態度を理論と実践を結び付けながら学び、理解し、身に付けた結果であると考えられる。平上は、「学内教育では知識・技術を学んでいるが、臨床実習では技能・態度を学ぶことになる。技能と態度は臨床現場でしか学べないことであり、学内教育で代替できるものではない」と述べている。<sup>16</sup> 看護基礎教育では、内容の充実と実践能力、臨床判断能力などの強化に焦点があてられ、療養の多様化等を勘案した多様な実習施設における実習の推進など、臨床実習が重要視されている。<sup>17</sup> 歯科衛生士養成課程における臨床実習でも、臨床現場で多くの対象者や医療従事者と接するなかで、専門的知識に加えて技能やスキルを身に付けることや、さまざまな対象者に対して診療現場でどのように実践対応しているのか学ぶことに一定の効



果が認められるため、できるだけ多くの実習時間を確保することが改めて重要と言える。

学生の臨床実習全般に対する思いや考えについては、質問「臨床実習期間中に、在学している学校の教員に積極的に相談したり、指導を依頼したりする。」に対して、短期大学の場合には臨床実習前に4年制大学の場合よりも有意に高い値であった。このことは、短期大学の学内では、比較的、教員に対して相談・指導を仰ぎやすい環境であることが考えられる。一方、臨床実習後、専門学校生が短期大学生や4年制大学生と比較して有意に低い値を示したことは、専門学校において教員の語りかけや環境作りが十分ではなかった可能性も考えられる。また、「将来自分がなりたい歯科衛生士像を明確に持っている」に対して、短期大学、4年制大学ともに、実習前に比べて実習後に有意に高い値を示したことは、特にこの2つの学校群の学生は、臨床実習を機に、それまでよりも将来の自分の姿をより明確化することができたと考えられる。また、臨床実習全般に対する思いや考えの全体としても、短期大学、4年制大学ともに実習前に比べて実習後に有意に高い値となったことから、臨床実習を通じて、将来なりたい歯科衛生士のイメージを念頭に、さらなる自身の向上を図りたいという思いや考えが身に付いたことが考えられる。

最後に、自己教育力に関しては、今回質問を行った4つの側面のうち、実習前に比べて実習後に有意に高い値となったのは、側面Ⅲ（学習の技能と基盤）全体平均における4年制大学のみであった。特に4年制大学の学生にとって、臨床実習を通して、自発的に学ぶ意欲や興味を高めることができたことを示唆している。このことは、臨床実習は、学生が専門的な知識や技能を身に付けるだけでなく、自己学習能力を高めたり、積極的な学習態度を身に付けたりする意味も大きいことを示していると考えられる。飯出らは、臨床実習では精神的緊張が持続することで学習意欲の低下もあると述べており、<sup>18</sup>臨床実習中に、学生が精神的な負荷をできるだけ軽くできるような環境を学校側が整えることにより、学生ができるだけ学習意欲を低下させずに実習を完遂し、実習で得られる学びを最大化することにつながるのではないかと考えられる。

また、この側面Ⅲ（学習の技能と基盤）においては、学校群別で、実習前、特に短期大学は4年制大学よりも有意に高い値を示す傾向が見られたことから、短期大学では臨床実習前からこうした学習の習慣が比較的整っていたことがうかがえる。一方、実習を通して専門学校

校や短期大学の場合、点数に有意な変化が現れず、結果、有意な上昇を示した4年制大学生の値と比べて有意に下回る対照的な結果となった。現状では、専門学校生と短期大学生にとっては、臨床実習は自己教育力を伸ばすことにはつなげていないと言える。4年制大学と比較して、そうした素地がすでに整っていたという見方も考えられるが、4年制大学と比べて専門学校、短期大学のPostの値が有意に低かったことから、専門学校生や短期大学生の自己教育力をさらに伸ばす余地はあると思われる。梶田によると、この側面Ⅲ（学習の技能と基盤）の各質問で問うているような土台が不十分なままでは、自立的に新たな学習をといっても実際上不可能であるという。<sup>14</sup>南らは、学生が自信を持ち、学習意欲を高めることができるような実習指導のあり方について検討する必要があると述べている。<sup>9</sup>このような観点では、専門学校や短期大学と比べて、4年制大学の場合は自己学習を促進する環境がより整っており、そのポテンシャルが高いことがあるのかもしれない。ただ、学生自身は、特に短期大学生は普段から学内環境を積極的に活用しており、実習後もそれは変わらず、一方、4年制大学の学生は、実習後に、学内の環境をより積極的に活用するようになることが考えられる。

同じく4年制大学の学生の場合、側面Ⅳ（自信・プライド・安定性）の「自分のやる事に自信を持っているほうだと思う」「生まれ変われるとしたなら、やはり今の自分に生まれたい」「自分にもいろいろととりえがあると思う」の各質問に対して、実習後に有意な上昇が見られたが、これは、自分のことをより肯定的に捉えられるようになったと解釈できる。アイデンティティの発達傾向の調査を行った畑野らは、青年期後期Ⅰ群（18歳～20歳）がアイデンティティの混乱ピークに達すると述べている。<sup>19</sup>歯科衛生士養成期間が3年制である専門学校と短期大学では、1年次と2年次前期に一般教養、歯科衛生士の基礎知識および技術を学んだ後、臨床実習が開始される。4年制大学では、それらを2年間かけて学び、3年次から臨床実習が開始されるため、臨床実習はアイデンティティの混乱ピーク時を避けて行われると言える。隅田によると、4年制大学では1年多く教員や友人、その他の人々と人間関係を構築する機会があるため、アイデンティティの発達の側面から見ても混乱がやや低く、心が比較的安定した状態であることが推察でき、3年制の専門学校・短期大学と比べると自他への肯定的な評価が高くなる可能性が考えられるという。<sup>13</sup>3年制の専門学校と短期大学では、アイデンティ

イティの発達混乱ピーク時に臨地実習が開始されることも、今回の結果につながったと考えられる。

自己教育力の育成に関し、医療従事者として生涯学び続ける力や主体的に考える力を養うためには、目標の明確化と設定<sup>20</sup>、自身の行動の振り返り<sup>21</sup>、そして環境が効果を持つと考えられる。看護分野では既に自己教育力の育成に力を入れており、「看護学実習におけるポートフォリオ」等を導入し、学生自身が学習や臨床実習などに有効活用することが行われている<sup>22</sup>。看護学生の実習に関しては、臨床実習中は緊張、不安、疲労、困惑の得点が高く有意に高くなり、交感神経反応が不安定となることからストレスフルな状態であることへの言及<sup>23</sup>や、看護学生が実習に適応しやすいような指導体制などさらなる支援の必要性の訴え<sup>24</sup>、さらには学生の実習意欲を阻害するような指導者・教員の姿勢や指導の不十分の指摘と実習指導以前の学生との関わりや個別指導の必要性、看護師モデルとしての指導者・教員の実践的指導の必要性、学生が話しやすい雰囲気や相談ができる環境作りや学生が安心して実習ができる環境作りの大切さ<sup>25</sup>への言及もある。こうした看護学分野における論点や取り組みを参考として、歯科衛生士養成課程における臨床実習にも、自己教育力の育成という観点にさらに力を入れることが必要であるし、普段の教育現場でも、学生が自己評価や自己改善に取り組むためのフィードバックや指導をさらに行うと同時に、自己解決能力や積極的な学習態度を醸成するための支援を行うことが必要である。

本研究では、歯科衛生士養成課程における臨床実習において、3年制の専門学校や短期大学、4年制の大学という養成機関の違いや養成課程年数の違いによって、臨床実習が臨床実践能力や自己教育力に及ぼす影響に差が生まれることが明らかとなった。山田によれば、臨地・臨床実習の養成機関の間での格差、実習施設の教育指導体制の差、短期大学や4年制大学の増加による教員不足も歯科衛生士の教育現場の課題であるという<sup>4</sup>。アイデンティティの混乱時期や、臨床実習開始時期なども配慮しつつ、学生に対する教師の対応や教育方法、臨床実習への関わり方について、学校群別の調整を図りながら検討することが重要である。

本研究実施にあたり、アンケート調査にご協力いただきました皆様に心から御礼申し上げます。

本研究は JSPS 科研費 JP22K10398 の助成を受け たものです。

本論文の一部は、日本歯科衛生学会 第 18 回学術大会（2023 年 9 月 16-18 日、静岡）にて発表した。本研究内容に関する利益相反事項はない。

## 引用文献

- 厚生労働省. 令和 3 年度介護報酬改定について. [https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000188411\\_00034.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000188411_00034.html): 2023 年 1 月 22 日アクセス.
- 一般社団法人日本訪問歯科協会. 介護事業所との連携と報酬. <https://www.houmonshika.org/dental/lab05/>: 2023 年 1 月 22 日アクセス.
- 厚生労働省. 医政発 1023 第 7 号 (平成 26 年 10 月 23 日). 各都道府県知事・各保健所を設置する市の市長・各特別区区长あて厚生労働省医政局長通知. 歯科衛生士法の一部改正の施行について (通知). [https://www.mhlw.go.jp/web/t\\_doc?dataId=00tc1750&dataType=1&pageNo=1](https://www.mhlw.go.jp/web/t_doc?dataId=00tc1750&dataType=1&pageNo=1): 2023 年 7 月 26 日アクセス.
- 山田隆文. 日本の歯科衛生士の現状と未来. 目白大学短期大学部研究紀要 2020; **56**: 57-70.
- 一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会. 歯科衛生士養成校一覧. <https://www.kokuhoken.or.jp/zen-eiky/school/index.html>: 2023 年 5 月 29 日アクセス.
- 一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会. 歯科衛生学教育コア・カリキュラムー教育内容ガイドラインー2022 年度改訂版 (2022 年 3 月 31 日発行). [https://www.kokuhoken.or.jp/zen-eiky/publicity/file/core\\_curriculum\\_2022.pdf](https://www.kokuhoken.or.jp/zen-eiky/publicity/file/core_curriculum_2022.pdf): 2023 年 7 月 26 日アクセス.
- 文部省編. 「自己教育力」の育成などの視点を提起ー中教審教育内容等小委員会が審議経過を報告. 文部時報 1983; **1279**: 26-43.
- 公益社団法人日本歯科衛生士会. 臨地実習指導マニュアルー歯科衛生士学生指導のためにー (2018 年 3 月 31 日発行).
- 南修子, 園田麻利子, 七川正一, 上原充世, 貝山桂子. 成人看護学実習における学生の自己教育力に影響する要因の検討. 鹿児島純心女子大学看護栄養学部紀要 2006; **10**: 26-37.
- 梅橋操子, 多久島寛孝, 三村孝俊, 永田華千代, 徳永郁子, 吉田一子, 弓掛和恵, 山口裕子, 西谷美幸, 田中英子, 嶋田かをる, 古賀和子, 北野正文, 川本起久子, 川端伸次, 亀山亜弓, 大澤早苗, 内山久美, 岩瀬裕子, 山本勝則, 井上悦子. 基礎実習前後における自己教育力の変化. 保健科学研究誌 2004; **1**: 105-112.
- 多久島寛孝, 山本勝則, 弓掛和恵, 吉田一子, 山口裕子, 永田華千代, 徳永郁子, 川本起久子, 亀山亜弓, 亀山広喜, 大澤早苗, 内山久美, 西谷美幸, 三村孝俊, 田中英子, 嶋田かをる, 北野正文, 梅橋操子, 古庄富美子, 井上悦子. 自己教育力に影響をおよぼす要因の分析. 保健科学研究誌 2006; **3**: 49-60.
- 能見清子, 杉田由加里, 吉本照子. 看護師の自己教育力の発展を促すための課題ー看護師の自己教育力に関する概念と関連因子についての文献検討よりー. 千葉看護学会誌 2014; **19**: 65-72.
- 隅田千絵. 看護基礎教育における臨地実習のりこえ感と看護実践能力の関連の検討. 人間環境学研究 2023; **21**: 27-32.

14. 梶田叡一. 自己教育への教育. 第1版. 東京: 明治図書, 1985.
15. 西村千代子, 奥野茂代, 小林洋子, 中島すま子. 看護婦の自己教育力 自己教育力測定尺度の検討. 日本赤十字社幹部看護婦研修所紀要 1995; 11: 22-39.
16. 平上二九三. 理学療法と作業療法の臨床実習教育の刷新—20年ぶりの養成施設指定規則改正によせて—. 吉備国際大学研究紀要 2019; 29: 21-39.
17. 厚生労働省. 看護基礎教育の充実に関する検討会報告書 (平成19年4月16日発行). <https://www.mhlw.go.jp/shingi/2007/04/dl/s0420-13.pdf>: 2023年7月26日アクセス.
18. 飯出美枝子, 三木園生, 澁谷貞子. 実習前後の看護学生の不安の変化について—STAIXを用いての分析—. 桐生短期大学紀要 2005; 16: 65-70.
19. 畑野快, 杉村和美, 中間玲子, 溝上慎一, 都築学. 青年期・成人期初期におけるアイデンティティの発達傾向と人生満足感の関連: 大規模横断調査に基づく検討. 発達心理学研究 2020; 31: 26-36.
20. 深田あきみ, 新橋澄子, 下高原理恵, 峰和治, 李慧瑛, 緒方重光. 学生のリフレクションを促す経験型実習—主体的に学ぶ力を育成するための取り組み—. 鹿児島大学医学部保健学科紀要 2015; 25: 11-18.
21. 森裕生, 網岡敬之, 江木啓訓, 尾澤重知. 学生が自己評価基準を設定し学習内容の振り返りを行う大学授業の実践と評価. 京都大学高等教育研究 2017; 23: 13-24.
22. 江崎ひろみ, 窪田志穂, 宮宇地秀代, 荒巻葉月, 神野藍梨, 福島里奈, 宮本翔平, 政岡敦子, 田中美延里, 野本百合子, 野村美千江. 自己教育力を高める「実習ポートフォリオ」の開発—学生と教員の協働によるアクション・リサーチ—. 愛媛県立医療技術大学紀要 2016; 13: 21-29.
23. 樋之津淳子, 林啓子, 村井文江, 高島尚美. 臨地実習における看護学生の気分変化と自律神経反応との関連. 札幌市立大学研究論文集 2007; 1: 31-34.
24. 龔恵芳. 看護学生の実習適応感に影響する要因の検討. 応用心理学研究 2020; 46: 11-21.
25. 長澤清隆, 堀良子. 看護学臨地実習で学習が停滞している学生が指導する教師に望むこと. 駒沢女子大学研究紀要【人間健康学部・看護学部編】 2021; 4: 71-84.

## Survey on clinical practical skills and self-educability of students enrolled in a dental hygienist training course

\*Yuko Setoguchi<sup>1,2</sup>, Ayuko Maesoma<sup>3</sup> and Michiko Nakatsuka<sup>4</sup>

<sup>1</sup>Doctor's Course of Oral Health Sciences, Graduate School of Health Sciences, Osaka Dental University, 1-4-4 Makinohonmachi, Hirakata-shi, Osaka 573-1144, Japan, <sup>2</sup>Naniwa Dental Hygiene College, 2-179 Ofukachou, Kita-ku, Osaka 530-0011, Japan,

<sup>3</sup>Department of Oral Health Sciences, Faculty of Health Sciences, Osaka Dental University, 1-4-4 Makinohonmachi, Hirakata-shi, Osaka 573-1144, Japan, and <sup>4</sup>Department of Oral Health Engineering, Faculty of Health Sciences, Osaka Dental University, 1-4-4 Makinohonmachi, Hirakata-shi, Osaka 573-1144, Japan

\*E-mail: setoguchi-y@cc.osaka-dent.ac.jp

**Abstract** The responsibilities of dental hygienists have been becoming more diverse in Japan, and dental hygienist training courses at schools are required to accommodate these changes. Self-educability is considered important in order for dental hygienists to respond to these changes. It is important to develop self-educability before graduation. However, there have been few studies on the relationship between education in dental hygienist training courses and the development of self-educability. We conducted a self-assessment survey comprising 70 questions on clinical practice skills and self-educability of students in dental hygienist training courses at three-year vocational and junior colleges and four-year universities before and after clinical practice, and examined the impact of clinical practice experience on the students' self-evaluations. We found that students from vocational and junior colleges had relatively high self-evaluations prior to clinical training, while students from four-year universities tended to increase their relatively low self-evaluations the most, in terms of clinical practice skills. As for self-educability, although students from four-year universities showed significant increases, this was not observed in students from vocational and junior colleges. These results suggest the need for improvement of educational methods in future dental hygienist training courses tailored to each school group. **Shika Igaku (J Osaka Odontol Soc) 2024; Mar; 87(1): 1-12.**

**Key words:** Dental hygienist training; Clinical practice skills; Self-educability